

大学への入学目的を考慮したコンピュータ・リテラシー教育の試み

6R-02

飯倉 道雄*

吉岡 亨*

泉本 利章**

*日本工業大学工学部

**立教大学観光学部

1. はじめに

今日、高等学校においては多くの学科で情報技術に関する教育が行われており、初等情報技術の知識および情報機器の操作を既に習得して入学する学生が増えてきた。また、2003年より高等学校普通教科「情報」が新設され、この傾向は今後更に増大するものと予想される。このような状況にあつては、画一的な情報処理環境は学生個々の学習履歴や学習進度に適合しないことがある。そこで、複数のプラットフォームに対応した情報処理機器を採用し、学習者が選択したプラットフォームで学習を継続できる学習環境の整備が進められている^[1]。

一方大学生の学習意欲の低下が叫ばれて久しいが、大学入学動機には何らかの入学目的が存在したと思われる。一般情報教育(コンピュータ・リテラシー教育)においても、学習意欲の向上をはかるためには、学部・学科の特徴を生かした教育が必要であると考へた。

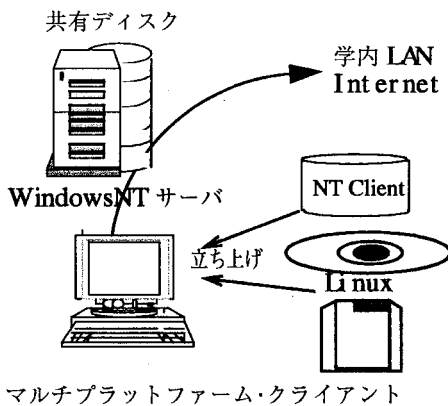


図 1 利用者が選択可能なプラットフォーム

コンピュータ・リテラシーは幅広い教育内容を含んでいるが、受講生の学習履歴や入学目的を考慮して教育をおこなった。その学生演習結果を検討したので報告する。

2. システムの概要

本システムの構成を図1に示す。学生演習用の各クライアントにはWindows NTがインストールされている。Windows NT利用者は、全てのクライアントからWindows NT サーバ上の共有ファイルや個人ファイルの利用が可能である。また、Linux利用者については、CD-ROM立ち上げが可能で、個人ファイルなどはZipメディアを利用する。

3. 受講生の学習履歴および情報技術への関心

観光学部の受講生83名に対して、「パソコン利用歴(図2)」および「観光学におけるコンピュータ利用技術の必要性(図3)」についてアンケート調査を行った。パソコン利用経験については、入学時点で約半数が1年未満であり、キーボードやマウスの操作練習の必要性が認められた。また、ほとんどの受講生のキーボード操作についても、タッチタイプ練習の必要性を認めた。

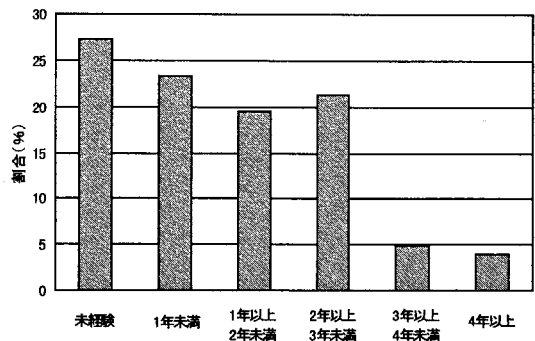


図 2 受講生のパソコン利用歴

Computer Supported Learning System
On Multi Platform Environment
Michio Iikura* Tohru Yoshioka* Toshiaki Izumoto**
* Nippon Institute of Technology
** Rikkyo University

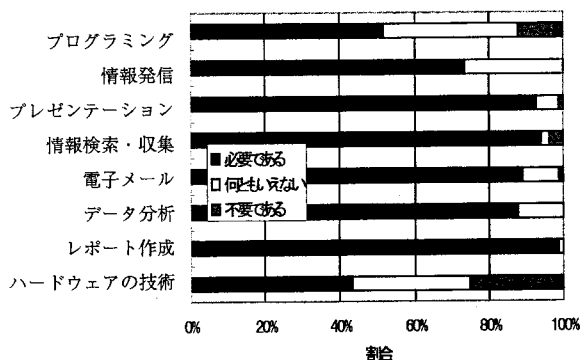


図3 観光学におけるコンピュータ利用技術の必要性

学習内容については、ハードウェアおよびプログラミング技術を必要と答えた受講生は半数以下であったが、不要と答えた受講生は2割前後であり、幅広い情報技術習得への意欲を感じた。

4. 演習内容および演習結果

1年をとおして行った演習課題およびその受講生による評価結果を図4に示す。タッチタイプは、4月の第1回演習にて練習ソフトウェアの利用方法を説明し、5月の連休まで約2週間に10回の練習を課した。1回の練習を、10分間練習・10分間休憩を1単位として3単位とした。タイプ練習における休憩時間は、練習効果を高めるために重要である^[2]。受講生のタッチタイプ練習に対する評価は、90%以上が「有益であった」と回答している。

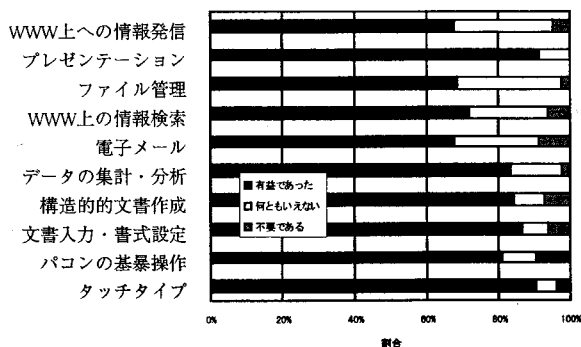


図4 受講生による学習内容の評価結果

演習クラスの平均タイプ速度の向上は、演習進度の向上につながり、教育する側にも有益である。受講生の「プレゼンテーション」への関心は高く、またその評価も高い。プレゼンテーションの演習課題は、「指定された地域の観光案内」の作成およびその説明を中心に行った。受講生の誰もが知らないであろうと想定される地域を指定するので、WWW上からの情報検索・収集が必要であった。

インターネット関係の演習課題(WWWおよび電子メール)の評価が低かった。電子メールについては、大学で配布した電子メール・アドレスの利用率が低いことも影響していると考ええる。昨今、電子メール・アドレスの取得および解約が簡単にできる無料のWebメールが広く普及している。また、携帯電話に代表されるモバイル情報端末も広く利用されている。これらの状況が、大学が配布する電子メール・アドレスの利用低下に関与しているものと思われる。

WWWを利用した情報発信は、7割程度の受講生が感心を示した。情報検索・収集もWWWを中心とした演習を行ったが、関心度ほどの評価は得られなかった。初等WWW検索技術は定着しつつあるものと判断した。

5. おわりに

大学への入学目的を意識したコンピュータ・リテラシー教育について報告した。受講生が意欲的に学習を継続可能な学習環境および学習内容の提供は、重要であるが容易でない。新教科「情報」の例をあげるまでもなく、IT教育が叫ばれる今日、大学における情報教育の変革が要求されている。その実現のために、今後更に調査・研究をすすめたい。

参考文献

- [1] 飯倉, 吉岡, 樺澤: マルチプラットフォーム型情報教育支援システム, 情報教育方法研究, Vol.3, pp.7-12, 2000.11
 [2] 飯倉, 小林, 吉岡, 樺澤: 全学習者の練習履歴参照機維持タッチタイプ練習環境の開発と評価, 教育システム情報学会誌, Vol.15, No.4, pp.362-365, 1999.1